

愛知県東海市の水路にみられる水生植物

中井 三従美

会報No.33・34号で、愛知県東海市にミジンコウキクサを報告した。その後、当地の水路において、8月～10月の短期間ではあるが水生植物を調査した。

東海市は、愛知県の北西部から「く」の字の形につき出した知多半島の北端にある。東西8.06km、南北10.97km、面積41.5km²で、西部は標高3m以下の沖積層の低地が広がり伊勢湾に接する。しかし、海岸線は広く埋め立てられ、名古屋南部臨海工業地帯を形成している。その工業地帯を南北へ走る西知多産業道路がある。東海市名和町は、その道路をはさむように西側は工場が建ち並び、東側は水田が多く、その一帯に大小の水路が走る。

昨年(1988)8月14日、水草に覆われた水路をみつけた。この水路は工場や水田の間を通る幅3m～10m、名和前ポンプ場までの約1.5kmで、北端近くには囲りに堤のない0.3haほどの池が水路と重なっている。この池は1959年、伊勢湾台風で二重堤防が決壊した時に出来た池で、堤防は修復されて現在は水路北側の道路になっている。この水路の北西側は南柴田新田、東南側は名和前新田と呼ばれ、江戸時代にこの地方の新田開発の当時、海より砂を運んで作られた新田である。伊勢湾台風で、南柴田新田が壊滅的な打撃を受け、その後の埋め立てで名古屋南部臨海工業地帯に変貌した。名和前新田は、その後も水田として現在に至り、台風時に出来た池は、地元の人々は“^{おお}大みよ”と呼び、かんがい用水として利用している。水路は鍵の手に曲り、流れはほとんどなく、ポンプ場より土留木(とどめき)川へ排出されている。(図1)

水路の水生植物

今回の調査で確認した水生植物のうち、最も多く生育していたのはトチカガミである。トチカガミは、本州以西の池沼や小川の水面に群生する多年草。和名の由来は、名古屋地方の方言から、トチはスッポン、カガミは鏡の意で葉面の光沢が著しいことによる。その他の浮葉植物は、ヒシ(二刺性)の群生がみられる。これらの種は、富栄養化した水域と結びつく種であるため、富栄養化の進んだ池や、水路など沖積地や洪積台地(本来、丘陵と呼ぶべき性格をもっていたと考えられるが、現在は農耕

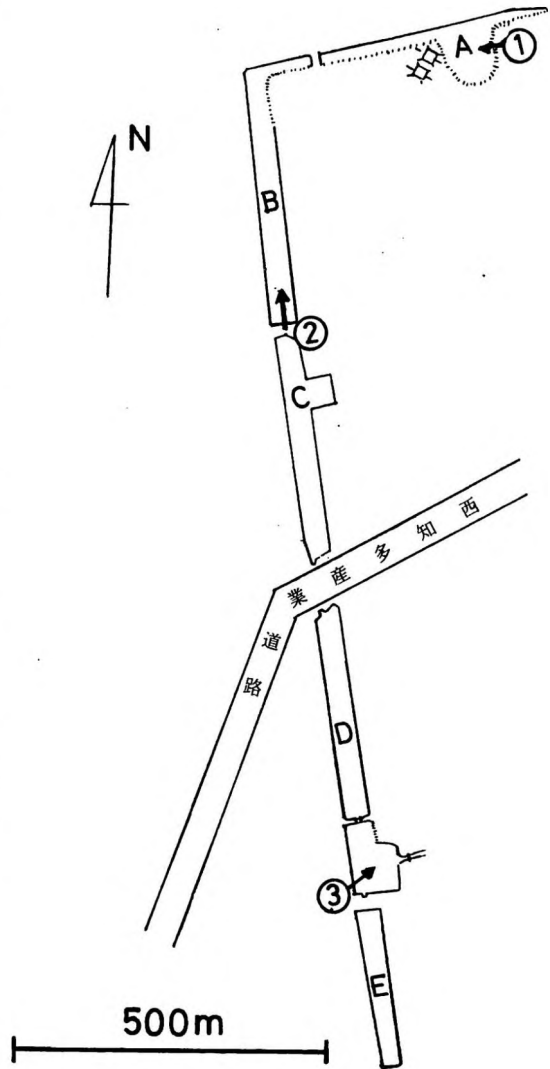


図1. 名和町の水路図と写真の方向(①～③)。

地になっている)に分布が限られている。トチカガミは、知多半島では、当市に記録(岡島, 1987)があるが半島内(5市5町)では他に記録はない。

浮遊植物は、ミジンコウキクサ、アオウキクサ、ウキクサ、コナギ、ホテイアオイがみられる。大みよ(池)

を中心に、ミジンコウキクサは大繁茂して、ウキクサと混生して水面を覆っている。8月24日、雷雨の朝、大みよの水位が上がり、水田やあぜ道の境をかくし、ウキクサ、ミジンコウキクサは、ヨシの間を通り、水田一帯に流れ、水路、池、水田を緑一色に染めていた。ミジンコウキクサは知多半島では記録はなく、この地方では、愛知県海部郡弥富町に記録があり、1988.8.24、弥富町操出地区で、イボウキクサとの混生を確認している。コナギ、ホテイアオイは、A水路に生育しているが、その他の水路にはみられない。

各水路は、浮葉、浮遊植物が水面を覆い、沈水植物を確認したのは、調査を開始して二週間ほどした頃であった。水深約1m、底が見えるほどの透明度があるC水路で、沈澱物の付着したひも状のものを採集し、振り洗いをした。エビモと不明種の二種。不明種については、標本同定を本会角野康郎先生にお願いした。リュウノヒゲモであった。リュウノヒゲモは、知多半島には記録はない。新産物である。

抽水植物は、ヨシが全域で群生（図省略）し、フトイ、ウキヤガラはヨシの中に点々とみられる。キシウスズメノヒエ、アシカキは、水路をふさぐように生育しているが、水路の周りから確認できないものもあり、実際には、図2-K・Lより多く生育している。ガマは西知多産業道路と交差する水路（C、D）を中心に南北に多くみられる。

なお、調査において、貴重な御教示をいただいた本会、大滝末男、角野康郎両先生に深く感謝申し上げます。

参 考 文 献

大滝末男, 1974. 水草の観察と研究. ニューサイエンス社.
角野康郎, 1984. 兵庫県東播磨地方にお

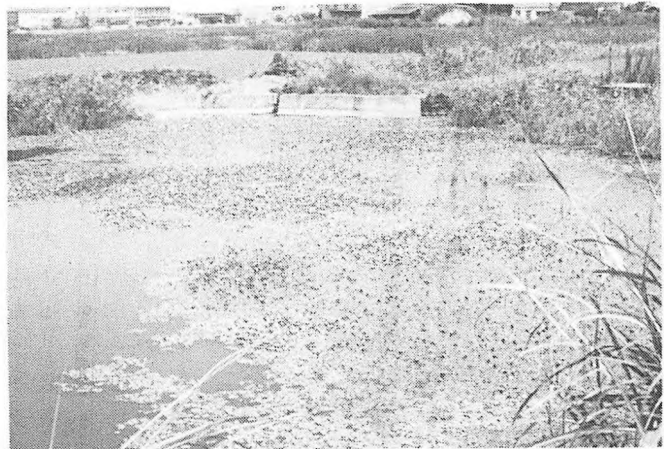
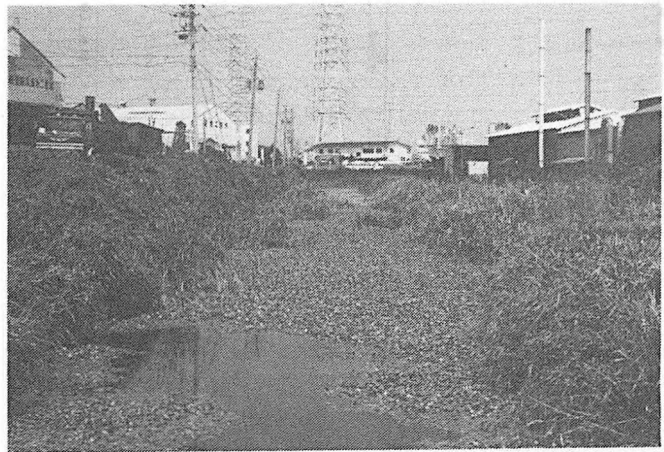
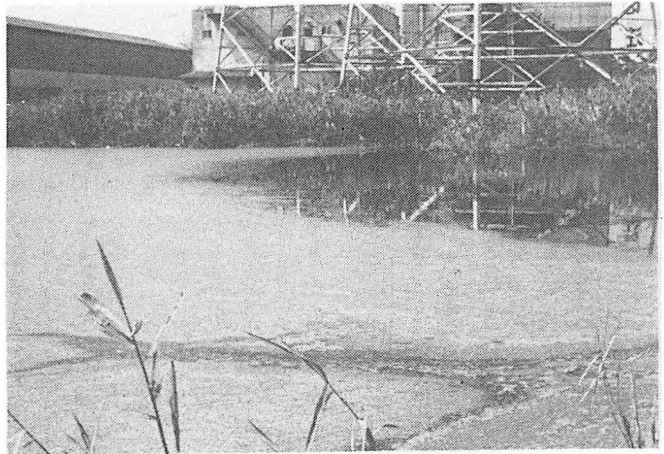
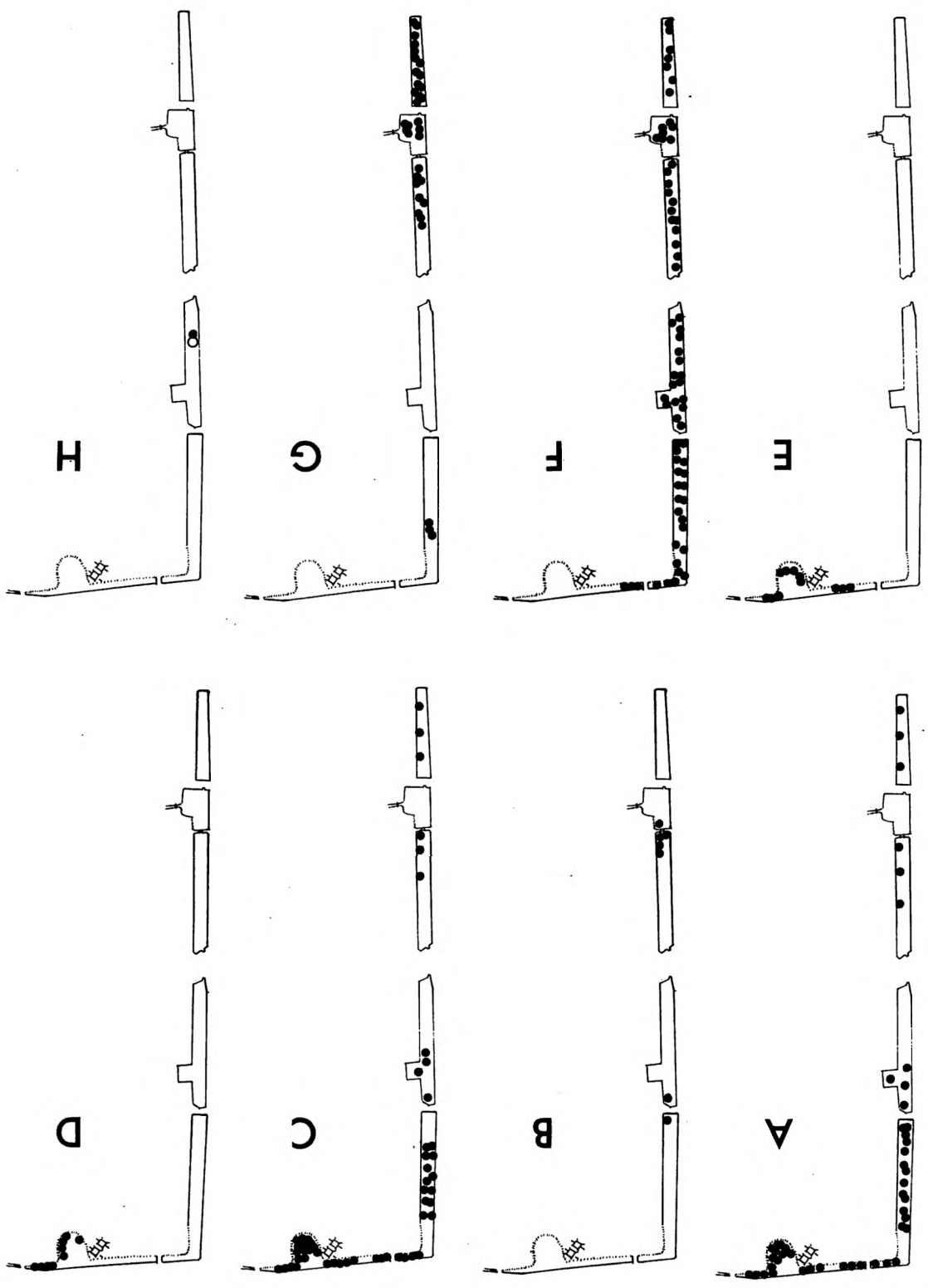


写真1(上). A水路“大みよ”のミジンコウキクサ(1988.8.29).

写真2(中). B水路を覆ったトチカガミの群生(1988.8.17).

写真3(下). D水路のヒシ・トチカガミ(1988.9.1).



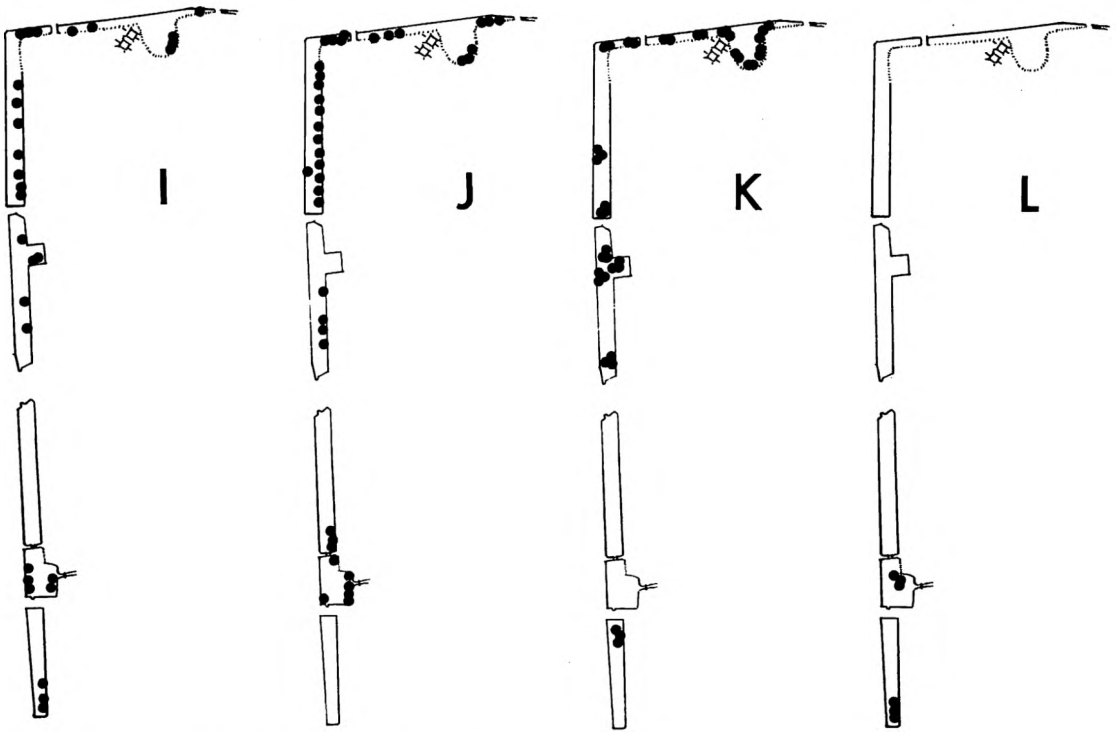


図2. 出現した水生植物の分布. A. ウキクサ, B. アオウキクサ, C. ミジンコウキクサ, D. コナギ, E. ホテイアオイ, F. トチカガミ, G. ヒシ, H. (●) リュウノヒゲモ, (○) エビモ, I. フトイ, J. ウキヤガラ, K. アシカキ, L. キシュウスズメノヒエ.

ける溜池の水生植物. 植物地理分類研究 32: 岡島錦也, 1987. 東海市の植物目録. 東海市. 127-135.

○『武豊町の植生』(愛知県武豊町, 昭和59年10月, 204頁)

○『美浜町の植生』(愛知県美浜町, 昭和62年12月, 144+104頁)

愛知県知多半島に位置する武豊町と美浜町の植生ならびに植物相を、本会会員和田基己氏が中心になって調査された報告書である。植生は、環境や地区別に概説されており、水草や湿原植物についても具体的に記載されていて参考になる。植物相については、リストとは別に植物地理学的な考察がなされている。東海要素(周伊勢湾要素)の産地として興味深い地域であるが、その問題

は今後のより広範な地域の調査を待って再論されるべきであろう。本文とは別に多数のカラー写真が載せられている。

地方の小さな一自治体から、体裁・内容ともに大変立派な本が出版されたことに、失礼な言い方だが、はじめは驚いた。調査担当者と行政当局の見識と先見性に敬意を表するとともに、浮わつた村おこしではなく、このような事業に投資することの大切さを、あらためて訴えたい。

(角野康郎)